

### 第3節 水生生物調査

#### 第1 水生生物調査

##### 1 目的

魚類・鳥類等の水生生物の生息状況は、河川・海域調査の理化学的・物理的な水質測定と比べ、より長期間の水辺環境を反映する。

本調査では、区内全域の水辺環境を広く体系的に調査し、絶滅危惧種や外来種の把握を行った。調査結果は、開発時の環境保全対策を講ずるための基礎資料や大田区における自然共生社会の構築を基本目標の一つとする「大田区環境アクションプラン」の資料及び普及啓発事業に活用する。

##### 2 調査地点

大田区内・地先の多摩川、呑川、内川、洗足池、運河海域において、魚類・底生生物調査、鳥類調査を計8地点で実施した。図1に調査地点図、表1に水域ごとの調査地点一覧と対象生物を示す。令和5年度調査は東京都の調査と重複する地点（多摩川・海老取川分岐点、京浜島つばさ公園～緑道公園、呑川河口～森ヶ崎の鼻）をやめ、新たに魚類・底生生物は六郷橋緑地を、鳥類では呑川上流及び中流域を調査地点とした。



図1 調査地点図

表1 水域ごとの調査地点一覧と対象生物（令和5年度）

水域	調査地点名	魚類・底生生物	鳥類
多摩川	① 田園調布～鶉の木緑地	○	○
	② 六郷橋緑地	○	○
	③ 大師橋緑地	○	○
呑川	④ 上流域	○	○
	⑤ 中流域	○	○
内川	⑥ 四之橋～諏訪橋	○	—
洗足池公園	⑦ 全域	—	○
運河海域	⑧ ふるさとの浜辺公園	—	○

※ 魚類・底生生物調査は、調査地点①、②、③、④、⑤、⑥の6地点の水域において調査範囲を選定して実施した。

また、調査地点①は淡水域（調布取水堰より上流側）の田園調布緑地で実施した。

※ 鳥類調査は、調査地点①、②、③、④、⑤、⑦、⑧の7地点の水域において調査範囲を選定して実施した。

### 3 調査時期

調査時期を表2に示す。

表2 調査時期

調査項目	調査日程
魚類・底生生物	春期 令和5年6月5日～7日
	夏期 令和5年8月1日～3日
鳥類	春の渡り期 令和5年4月21日、24～25日
	繁殖期 令和5年6月19日～21日
	夏期 令和5年8月1日～2日
	秋の渡り期 令和5年9月13日～15日
	越冬期 令和6年1月30日

### 4 調査方法

#### (1) 魚類・底生生物調査

手網(タモ網)、投網、セルビンなど、水域の環境ごとに適切な漁具を使用し採集を行った。採集した魚類・底生生物は、種名、分布状況などの記録を行い、写真撮影した後、現地にて放流した。魚類・底生生物共に特定外来生物については、他種と同様に記録後、捕獲地点において適切に処分した。

#### (2) 鳥類調査

各調査地点の調査範囲内を任意踏査し、目視観察及び鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数の概数等を記録した。

## 5 調査結果

### (1) 魚類・底生生物

魚類は6目11科29種(春期25種、夏期16種)、底生生物は21目38科52種(春期43種、夏期39種)が確認された。表3、表4に確認種一覧を示す。

表3 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査地点(水域名・地点名)					
				多摩川			呑川		内川
				田園調布～ 鶉の木緑地	六郷橋緑地	大師橋緑地	八幡橋 付近	養源寺橋 付近	四之橋～ 諏訪橋
1	ニシン	ニシン	コノシロ			○			
2	コイ	コイ	コイ(型不明)			○		○	
3			フナ属	○					
4			オイカワ	○					
5			マルタ	○		○		○	
—			ウグイ属 <sup>*2</sup>	△	○	△		△	○
6			タモロコ	○					
7			カマツカ類	○					
8			ニゴイ類	○	○	○			
9		ドジョウ	ヒガシシマドジョウ	○					
10	サケ	アユ	アユ	○			○		
11	ボラ	ボラ	ボラ	○	○	○	○	○	○
12	ダツ	メダカ	ミナミメダカ		○				
13	スズキ	スズキ	スズキ						○
14		サンフィッシュ	コクチバス	○					
15		アジ	ギンガメアジ			○			
16		タイ	クロダイ			○			
17			キチヌ		○	○			○
18		ハゼ	マハゼ	○	○	○		○	○
19			アベハゼ		○	○			○
20			マサゴハゼ		○	○			
21			ヌマチチブ	○			○		
22			チチブ		○				○
—			チチブ属 <sup>*2</sup>		△				
23			ゴクラクハゼ	○					
24			ウロハゼ						○
25			ヒメハゼ		○				
26			スミウキゴリ				○ <sup>*3</sup>		
27			ウキゴリ	○					
28			ビリンゴ		○	○		○	
—			ウキゴリ属					○ <sup>*3</sup>	
29			ドロメ						○
計	6目	11科	29種	14種	11種	12種	4種	6種	9種
				25種			8種 <sup>*3</sup>		

※1 種名や並び順等は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和5年度版」(国土交通省、令和5年)に準拠した。

※2 ウグイ属はマルタ、チチブ属はヌマチチブまたはチチブの可能性があり、重複する場合は種数の合計には含めなかった。なお、種数の合計に含めないものは△で記した。

※3 ウキゴリ属はスミウキゴリまたはウキゴリ可能性がある。呑川全体で考えた場合、八幡橋ではスミウキゴリが、養源寺橋ではウキゴリ属が確認されており、重複する可能性があるため、ウキゴリ属は呑川の種数の合計には含めなかった。

表4 底生生物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査地点(水域名・地点名)					
				多摩川			呑川		内川
				田園調布～ 鶉の木緑地	六郷橋緑地	大師橋緑地	八幡橋 付近	養源寺橋 付近	四之橋～ 諏訪橋
1	ハタグチ(旗口)クラゲ	オキクラゲ	アカクラゲ		○	○			
2			ミズクラゲ		○	○			
3	サンキショウ(三岐腸)	-	三岐腸目	○			○		
4	-	-	紐形動物門		○				
5	新生腹足	カワザンショウガイ	カワザンショウガイ科 <sup>*2</sup>		○	○			
6	汎有肺	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ				○		
-			モノアラガイ科 <sup>*2</sup>	○			△	○	
7		サカマキガイ	サカマキガイ				○	○	
8	イガイ	イガイ	コウロエンカワヒバリガイ		○	○			○
9	ウグイスガイ	イタボガキ	マガキ						○
10	マルスダレガイ	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ						○
11		シジミ	ヤマトシジミ		○	○			
12		ドブシジミ	ドブシジミ科 <sup>*2</sup>	○					
13	サシバゴカイ	ゴカイ	カワゴカイ属 <sup>*2</sup>		○	○			○
14	イトゴカイ	イトゴカイ	イトゴカイ科 <sup>*2</sup>			○			○
15	ケヤリムシ	カンザシゴカイ	カンザシゴカイ科 <sup>*2</sup>			○			○
16	イトミミズ	ミズミミズ	ミズミミズ科 <sup>*2</sup>	○			○	○	○
17	フナシビル(吻無蛭)	イシビル	シマイシビル	○					
-			イシビル科 <sup>*2</sup>	△			○	○	
18	フジツボ	フジツボ	ヨーロッパフジツボ		○	○			○
19			シロスジフジツボ						○
20			ドロフジツボ		○				
-			フジツボ科 <sup>*2</sup>			△			△
21	ヨコエビ	ユンボソコエビ	ユンボソコエビ科 <sup>*2</sup>		○	○			○
-		-	ヨコエビ目			△			△
22	ワラジムシ	ミズムシ(甲)	ミズムシ(甲)	○					
23		コツブムシ	コツブムシ科 <sup>*2</sup>						○
24		フナムシ	キタフナムシ		○	○			○
25	エビ	ヌマエビ	カワリヌマエビ属 <sup>*2</sup>	○			○		
26		テナガエビ	テナガエビ	○	○				○
27			シラタエビ		○	○			○
28			スジエビ	○					
-			スジエビ属 <sup>*2</sup>		△	△			△
29		アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	○					
30		ワタリガニ	チチュウカイミドリガニ		○				○
31		ベンケイガニ	アカテガニ			○			
32			クロベンケイガニ		○	○			○
33			ベンケイガニ			○			
34		モクズガニ	モクズガニ	○			○	○	
35			アシハラガニ		○	○			○
36			ケフサイソガニ			○			
37			イソガニ						○
38			タカノケフサイソガニ		○	○			○
39		コメツキガニ	チゴガニ		○	○			
40		オサガニ	ヤマトオサガニ		○	○			○
41	カゲロウ(蜉蝣)	コカゲロウ	コカゲロウ科 <sup>*2</sup>	○			○		
42	トンボ(蜻蛉)	イトトンボ	イトトンボ科 <sup>*2</sup>		○				
43		サナエトンボ	サナエトンボ科 <sup>*2</sup>	○					
44		エゾトンボ	コヤマトンボ	○					
45		トンボ	シオカラトンボ	○					
-			トンボ科 <sup>*2</sup>	△					
46	カメムシ(半翅)	アメンボ	アメンボ				○	○	
47			ヒメアメンボ		○				
48		ミズムシ(昆)	チビミズムシ	○					
-			チビミズムシ属 <sup>*2</sup>	△					
49	トビケラ(毛翅)	シマトビケラ	コガタシマトビケラ属 <sup>*2</sup>	○					
-			シマトビケラ科 <sup>*2</sup>	△					
50		ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ科 <sup>*2</sup>	○					
51	ハエ(双翅)	ユスリカ	ユスリカ科 <sup>*2</sup>	○			○	○	○
52		ブユ	アシマダラブユ属 <sup>*2</sup>				○		
計	21目	38科	52種	19種	21種	20種	11種	7種	21種
				44種			11種		

※1 種名や種順等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和5年度版」(国土交通省、令和5年)に準拠した。  
 ※2 ○○属、○○科などと表記したものについて、他種と重複する可能性がある場合は△で記し、種数の合計には含めなかった。

## ア 多摩川

多摩川では 25 種の魚類、44 種の底生生物が確認された。大田区内の多摩川は下流域から河口域であり、淡水域や汽水域など多様な環境を有している。また、調布取水堰より上流は、潮位の影響を受けない淡水域であり、下流は汽水域となり、干潮時に出現する干潟や広域なヨシ原もみられる。これらの環境を反映し、オイカワやタモロコなどの淡水域に生息する種、コノシロやボラ、マハゼなどの汽水・海水域に生息する種、テナガエビなどの回遊性の種、マサゴハゼやヤマトオサガニなどの干潟のみに出現する種など、多様な種類が確認された。

## イ 呑川

呑川では 8 種の魚類、11 種の底生生物が確認された。呑川は三面コンクリートで護岸された典型的な都市河川である。調査を実施した上流域の八幡橋付近は、平坦なコンクリート河床の一部に人工の切欠きが設けられ、この切欠き中に砂礫や岩などが配置されており、殆どの水生生物はこの切欠きの中で捕獲された。また、中流域の養源寺橋付近は、調査を実施した干潮時には河道中央部の低々水路のみに水がみられたが、低々水路は水深が深く立ち込めないほどの水深だった。養源寺橋付近のコンクリートの河床上に堆積物はほぼみられず生物の確認には適さなかったが、養源寺橋より下流側の浄国橋付近には、コンクリート河床上に石礫などの堆積物がみられた。水深も浅くなっており、多くの底生生物が確認された。

魚類ではコイ、ボラが確認されたほか、回遊性のウグイ属(ウグイまたはマルタの幼魚)、アユ、マハゼ、ヌマチチブ、スミウキゴリ、ビリンゴが確認された。底生生物では、サカマキガイといった汚濁耐性が高い種のほか、回遊性のモクズガニなどが確認された。

## ウ 内川

内川では 9 種の魚類、21 種の底生生物が確認された。調査を実施した四之橋～諏訪橋付近は、全域が汽水域であり、潮位によっては河岸に泥質の小規模な干潟が干出する。河岸はコンクリートや鋼矢板で護岸が施されているが、魚巢ブロックの利用や空石積みなどにより、生物の生息に配慮した環境となっている。干潟などからは、魚類のマハゼ、底生生物のヤマトオサガニが確認されたほか、河岸の魚巢ブロックなどからは、魚類のチチブやアベハゼ、ウロハゼ、ドロメ、護岸の壁面からは底生生物のマガキ、コウロエンカワヒバリガイ、ウネナシトマヤガイ、シロスジフジツボ、クロベンケイガニなどが確認された。また、汽水性のボラ、スズキ、キチヌといった遊泳魚や、テナガエビやシラタエビなどの底生生物も確認された。

(2) 鳥類

鳥類は、13目33科74種(春の渡り期：38種、繁殖期：35種、夏期：37種、秋の渡り期：39種、越冬期：52種)が確認された。表5に確認種一覧を示す。

表5 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査地点(水域名・地点名)						
					多摩川			呑川		洗足池公園	運河海域
					田園調布～ 鶴の木緑地	六郷橋緑地	大師橋緑地	堺橋～ 北の橋	霊山橋～ 堤方橋		
1	カモ	カモ	オカヨシガモ	冬鳥					○		○
2			ヒドリガモ	冬鳥	●	○	◎				◎
3			アメリカヒドリ	冬鳥	○						
4			マガモ	冬鳥	○		○				
5			カルガモ	留鳥	◎	○	◎	◎	○	◎	○
6			オナガガモ	冬鳥				○	○		○
7			コガモ	冬鳥	◎	◎	◎	◎			
8			ホシハジロ	冬鳥			○		○		
9			キンクロハジロ	冬鳥		○		○		◎	○
10			スズガモ	冬鳥			◎				○
11	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	○					○	
12			アカエリカイツブリ	不明						○	
13			カンムリカイツブリ	冬鳥	○		○				
14	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○				○	○	
15	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	●	○	●	◎	◎	○	◎
16	ベリカン	サギ	ヨシゴイ	夏鳥		○					
17			ササゴイ	夏鳥							○
18			アオサギ	留鳥	◎	○	◎	○			◎
19			ダイサギ	留鳥	○	○	◎	○		○	○
20			チュウサギ	夏鳥			○				
21			コサギ	留鳥	◎	◎	◎	○	○		◎
22	ツル	クイナ	バン	留鳥		○					○
23			オオバン	留鳥	●	◎	◎	○	◎	○	
24	チドリ	チドリ	イカルチドリ	留鳥	○						○
25			コチドリ	夏鳥	○	◎	◎				○
26			メダイチドリ	旅鳥			◎				○
27		セイタカシギ	セイタカシギ	留鳥		○	○				
28		シギ	タシギ	冬鳥		○	○				
29			チュウシャクシギ	旅鳥		○	○				
30			アオアシシギ	旅鳥		○	○				
31			キアシシギ	旅鳥		○	○				○
32			イソシギ	留鳥	○	○	○				○
33			キョウジョシギ	旅鳥							○
34		カモメ	ユリカモメ	冬鳥		◎	◎			◎	○
35			ウミネコ	留鳥			○				○
36			セグロカモメ	冬鳥	○		◎				○
37	タカ	ミサゴ	ミサゴ	旅鳥	○		○				
38		タカ	トビ	留鳥	○	○	○	○			
39			ツミ	留鳥						○	
40			オオタカ	冬鳥	○			○			
41			ノスリ	冬鳥		○					
42	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	○		○	○		○	
43	キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥						○	
44	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥		○	○				
45			ハヤブサ	留鳥			○				
46	スズメ	モズ	モズ	留鳥	○	○	○			○	
47		カラス	オナガ	留鳥		○	○		○	◎	
48			ハシボソガラス	留鳥	◎	○	◎	○	○	○	○
49			ハシブトガラス	留鳥	◎	○	◎	○	○	○	○
50		シジュウカラ	ヤマガラ	冬鳥	○						
51			シジュウカラ	留鳥	○	○	○		○	◎	○
52		ツバメ	ツバメ	夏鳥	◎	◎	◎	○	○	○	○
53			イワツバメ	夏鳥	○						
54		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○	○	○	○	◎	○
55		ウグイス	ウグイス	冬鳥						○	
56		エナガ	エナガ	冬鳥	○					◎	
57		メジロ	メジロ	留鳥	○	○	○	○	○	◎	
58		ヨシキリ	オオヨシキリ	夏鳥		◎	○				
59		セッカ	セッカ	留鳥	○						
60		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	◎	●	◎	○		○	◎
61		ヒタキ	ツグミ	冬鳥	○	◎	○				○
62			ジョウビタキ	冬鳥						○	
63			イソヒヨドリ	留鳥	○		○				○
64		スズメ	スズメ	留鳥	●	◎	◎	◎	◎	○	◎
65		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	◎	◎	○	◎	◎	○	○
66			セグロセキレイ	冬鳥	○						
67			タヒバリ	冬鳥	○						
68		アトリ	カワラヒワ	留鳥	◎	○	◎				○
69		ホオジロ	ホオジロ	冬鳥	○	○	○				
70			アオジ	冬鳥	○	○	○			○	
71			オオジュリン	冬鳥	○	○	○				
72	ハト※1	ハト	カワラバト(ドバト)	外来種	◎	●	●	●	◎	◎	◎
73	インコ※1	インコ	ホンセイインコ	外来種	◎	○			○	◎	○
74	スズメ※1	チメドリ	カオグロガビチョウ	外来種		○					
計	13目	33科	74種	-	45種	41種 66種	48種	22種 19種	28種	30種	34種

※1 種名や種順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、平成24年)に準拠した。そのため外来種は最後にまとめた。

※2 確認種類数の凡例 ○:10羽以下、◎:11~99羽、●:100羽以上

渡り区分は「東京都産鳥類目録2000 自治体編 Ver.1」(日本野鳥の会東京支部、平成21年)の自治体目録「A11 大田区」に従った。

## ア 多摩川

多摩川では 66 種の鳥類が確認された。大田区内の多摩川は川の下流域から河口域であり、淡水域から汽水域となる。調布取水堰上流の淡水域は礫地が広がる。また、六郷橋緑地より下流の汽水域では干潮時には干潟が広がり、水際には広域にヨシ原が広がるといった多様な水辺環境を有する。また、広い河川敷では、樹木群や草地、芝地、グラウンドのほか、調布取水堰付近では比較的まとまった樹林を有する多摩川台公園に隣接し、陸域の環境も多様である。主に以下の種が確認された。

- ・ 水辺に生息する種：ヒドリガモ、コガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、コサギ、オオバンなど
- ・ 干潟に生息する種：メダイチドリ、セイタカシギ、アオアシシギなど
- ・ ヨシ原に生息する種：ヨシゴイ、オオヨシキリ、オオジュリンなど
- ・ 広い行動圏を必要とする猛禽類：ミサゴ、トビ、オオタカ、ノスリなど
- ・ 草地に生息する種：ホオジロ、アオジ、セッカなど
- ・ 芝地やグラウンドで採餌する種：ムクドリ、ツグミ、スズメなど
- ・ 樹林に生息する種：ヤマガラ、シジュウカラ、メジロなど

## イ 呑川

呑川では 28 種の鳥類が確認された。呑川は市街地内を流れる河川で河岸は護岸化され、河床も多くは護岸化されている。直線的に護岸化された呑川の水辺環境は単調であるが、中流域まで下ると汽水域となっており、池上本門寺の周辺にはまとまった樹林がある。これらの環境を反映して、カルガモ、オナガガモ、コガモといったカモ類、カワウ、コサギといった魚類を捕食する種が確認されたほか、市街地に多いハクセキレイ、カワラバト(ドバト)、樹林や林縁に生息するキジバト、オナガなどが確認された。

## ウ 洗足池公園

洗足池公園では 30 種の鳥類が確認された。洗足池ではカルガモ、オナガガモ、キンクロハジロといったカモ類やカイツブリ、アカエリカイツブリ、オオバンが確認された。このほかに水辺に生息する種ではカワウ、ダイサギ、ユリカモメなどが確認された。洗足池は池の周囲に樹林があり、小型の猛禽類であるツミが確認された。このほかにコゲラやエナガ、メジロ、オナガなどの樹林や林縁に生息する種や外来種のホンセイインコも確認された。

## エ ふるさとの浜辺公園

運河海域のふるさとの浜辺公園では 34 種の鳥類が確認された。ふるさとの浜辺公園は埋め立て地につくられた人工浜辺である。人の立ち入りができない人工干潟の部分は、アオサギやダイサギ、コサギなどのサギ類、ヒドリガモやカルガモなどのカモ類、カワウの休息場所としてよく利用されていたほか、メダイチドリやキアシシギ、キョウジョシギなどのシギ・チドリ類の採餌利用も確

認された。園内の芝生ではムクドリやカワラバト(ドバト)の採餌行動が確認されたほか、隣接するゴルフ練習場の周辺ではホンセイインコが確認された。

## 6 重要種の選定

重要種の選定にあたっては、文化財保護法(昭和25年)、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年)、環境省レッドリスト2020(令和2年)及び東京都レッドデータブック(本土部)2023(令和5年)を基準とした。

魚類では12種、底生生物では13種、鳥類では41種が重要種として選定された。重要種の選定基準及びカテゴリーを表6に、魚類・底生生物の選定結果を表7に、鳥類の選定結果を表8に示す。なお、文化財保護法に該当する種の確認はなかった。

表6 重要種の選定基準及びカテゴリー

根拠法令等 (表中での表記)	選定基準及びカテゴリー
文化財保護法(昭和25年 法律第214号) (文化財法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特天 特別天然記念物</li> <li>・天 天然記念物</li> </ul>
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号) (種の保存法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内 国内希少野生動植物種</li> <li>・国際 国際希少野生動植物種</li> <li>・緊急 緊急指定種</li> </ul>
環境省レッドリスト2020(令和2年 環境省) (環境省 RL2020)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EX 絶滅</li> <li>・EW 野生絶滅</li> <li>・CR+EN 絶滅危惧Ⅰ類</li> <li>・CR 絶滅危惧ⅠA類</li> <li>・EN 絶滅危惧ⅠB類</li> <li>・VU 絶滅危惧Ⅱ類</li> <li>・NT 準絶滅危惧</li> <li>・DD 情報不足</li> <li>・LP 絶滅のおそれのある地域個体群</li> </ul>
東京都レッドデータブック(本土部)2023 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部)解説版(令和5年 東京都) 「区部」に該当する種を選定 (東京都 RDB2023(区部))	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EX 絶滅</li> <li>・EW 野生絶滅</li> <li>・CR+EN 絶滅危惧Ⅰ類</li> <li>・CR 絶滅危惧ⅠA類</li> <li>・EN 絶滅危惧ⅠB類</li> <li>・VU 絶滅危惧Ⅱ類</li> <li>・NT 準絶滅危惧</li> <li>・DD 情報不足</li> <li>・LP 絶滅のおそれのある地域個体群</li> <li>・留意 留意種</li> </ul>

表7 重要な魚類・底生生物の選定・区内分布

No.	分類	種名	分布域	重要種の選定基準		
				種の保存法	環境省	東京都
					RL2020	RDB2023 (区部)
1	魚類	オイカワ	田園調布～鶉の木緑地			DD
2		マルタ	田園調布～鶉の木緑地、 大師橋緑地、養源寺橋付近			留意
3		ヒガシシマドジョウ	田園調布～鶉の木緑地			VU
4		ミナミメダカ	六郷橋緑地		VU	CR
5		マサゴハゼ	六郷橋緑地、大師橋緑地		VU	EN
6		ヌマチチブ	田園調布～鶉の木緑地、 八幡橋付近			留意
7		チチブ	六郷橋緑地、四之橋～諏訪橋			留意
8		ゴクラクハゼ	田園調布～鶉の木緑地			CR
9		ヒメハゼ	六郷橋緑地			NT
10		スミウキゴリ	八幡橋付近			NT
11		ウキゴリ	田園調布～鶉の木緑地			NT
12		ビリンゴ	六郷橋緑地、大師橋緑地、 養源寺橋付近			NT
計		12種	-	0種	2種	12種
1	底生生物	ウネナシトマヤガイ	四之橋～諏訪橋			DD
2		ヤマトシジミ	六郷橋緑地、大師橋緑地		NT	DD
3		テナガエビ	田園調布～鶉の木緑地、 六郷橋緑地、四之橋～諏訪橋			留意
4		シラタエビ	六郷橋緑地、大師橋緑地、 四之橋～諏訪橋			DD
5		スジエビ	田園調布～鶉の木緑地			留意
6		アカテガニ	大師橋緑地			留意
7		クロベンケイガニ	六郷橋緑地、大師橋緑地、 四之橋～諏訪橋			留意
8		ベンケイガニ	大師橋緑地			留意
9		モクズガニ	田園調布～鶉の木緑地、 八幡橋付近、養源寺橋付近			留意
10		アシハラガニ	六郷橋緑地、大師橋緑地、 四之橋～諏訪橋			留意
11		チゴガニ	六郷橋緑地、大師橋緑地			留意
12		ヤマトオサガニ	六郷橋緑地、大師橋緑地、 四之橋～諏訪橋			留意
13		コヤマトンボ	田園調布～鶉の木緑地			VU
計	-	13種	-	0種	1種	13種

表8 重要な鳥類の選定・区内分布

No.	種名	分布域	重要種の選定基準		
			種の保存法	環境省	東京都
				RL2020	RDB2023 (区部)
1	ホシハジロ	大師橋緑地、霊山橋～堤方橋			VU
2	スズガモ	ふるさとの浜辺公園			留意
3	カイツブリ	田園調布～鶉の木緑地、洗足池公園			NT
4	アカエリカイツブリ	洗足池公園			NT
5	カンムリカイツブリ	田園調布～鶉の木緑地、大師橋緑地			留意
6	ヨシゴイ	六郷橋緑地		NT	CR
7	ササゴイ	ふるさとの浜辺公園			CR
8	ダイサギ	田園調布～鶉の木緑地、 六郷橋緑地、大師橋緑地、 堺橋～北の橋、洗足池公園			NT
9	チュウサギ	大師橋緑地		NT	NT
10	コサギ	田園調布～鶉の木緑地、 六郷橋緑地、大師橋緑地、 堺橋～北の橋、霊山橋～堤方橋、 洗足池公園、ふるさとの浜辺公園			VU
11	バン	六郷橋緑地			EN
12	オオバン	田園調布～鶉の木緑地、 六郷橋緑地、大師橋緑地、 堺橋～北の橋、霊山橋～堤方橋、 洗足池公園、ふるさとの浜辺公園			CR
13	イカルチドリ	田園調布～鶉の木緑地、 ふるさとの浜辺公園			EN
14	コチドリ	田園調布～鶉の木緑地、 六郷橋緑地、大師橋緑地、 ふるさとの浜辺公園			CR
15	メダイチドリ	大師橋緑地、ふるさとの浜辺公園	国際		VU
16	セイタカシギ	六郷橋緑地、大師橋緑地		VU	EN
17	タシギ	六郷橋緑地、大師橋緑地			VU
18	チュウシャクシギ	六郷橋緑地			VU
19	アオアシシギ	六郷橋緑地、大師橋緑地			NT
20	キアシシギ	六郷橋緑地、大師橋緑地、 ふるさとの浜辺公園			VU
21	イソシギ	田園調布～鶉の木緑地、 六郷橋緑地、大師橋緑地、 ふるさとの浜辺公園			VU
22	キョウジョシギ	ふるさとの浜辺公園			VU
23	ウミネコ	大師橋緑地、ふるさとの浜辺公園			留意
24	ミサゴ	田園調布～鶉の木緑地、大師橋緑地		NT	EN
25	トビ	田園調布～鶉の木緑地、 六郷橋緑地、大師橋緑地、 堺橋～北の橋			NT
26	ツミ	洗足池公園			EN
27	オオタカ	田園調布～鶉の木緑地、 堺橋～北の橋		NT	EN
28	ノスリ	六郷橋緑地			CR
29	カワセミ	田園調布～鶉の木緑地、 大師橋緑地、堺橋～北の橋、 洗足池公園			VU
30	チョウゲンボウ	六郷橋緑地、大師橋緑地			EN
31	ハヤブサ	大師橋緑地	国内	VU	EN
32	モズ	田園調布～鶉の木緑地、 六郷橋緑地、大師橋緑地、 洗足池公園			CR
33	オナガ	六郷橋緑地、大師橋緑地、 霊山橋～堤方橋、洗足池公園			NT
34	ヤマガラ	田園調布～鶉の木緑地			VU
35	イワツバメ	田園調布～鶉の木緑地			DD
36	オオヨシキリ	六郷橋緑地、大師橋緑地			CR
37	セッカ	田園調布～鶉の木緑地			CR
38	イソヒヨドリ	田園調布～鶉の木緑地、 大師橋緑地、ふるさとの浜辺公園			NT
39	セグロセキレイ	田園調布～鶉の木緑地			VU
40	ホオジロ	田園調布～鶉の木緑地、 六郷橋緑地、大師橋緑地			EN
41	オオジュリン	六郷橋緑地、大師橋緑地			NT
計	41種	-	2種	6種	41種

## 7 経年変化

過年度の調査で確認された種数は表9の通りである。魚類と鳥類の種数は過年度の結果と大きく変わらなかった。底生生物の種数は平成28年度に67種と多く、令和元年度と本年度の結果は大きく変わらなかった。

表9 過年度調査で確認された種数

	平成25年度	平成28年度	令和元年度	令和5年度
魚類	33種	31種	34種	29種
底生生物	30種	67種	56種	52種
鳥類	67種	74種	71種	74種

## 8 まとめ

本調査では、魚類は6目11科29種、底生生物は21目38科52種、鳥類は13目33科74種が確認された。

多摩川・運河海域では水域のほか干潟やヨシ原など、魚類、底生生物、鳥類の生息環境として、多様で良好な環境が整備・維持されていることを確認した。内川や呑川の上流部でも生物の生息に配慮した環境が整備され、重要種を含む魚類、底生生物、鳥類が確認された。

淡水域から海域、河川、干潟、岩礁、ヨシ原、樹林などの多様な環境が維持されていることが、魚類、底生生物、鳥類の生息が安定している要因として伺われた。しかし、本年度では魚類のトビハゼ、底生生物のコメツキガニ、鳥類のコアジサシが確認されていない。確認されなかった要因を探る上でも、今後も継続して調査を実施し、生息状況を把握していく。